川柳マガジンクラブ東京句会　9月

平成20年9月14日（日）　駒込学園にて

出席者22名

山口千枝子、伊藤三十六、井手ゆう子、村田倫也、小倉利江、甲野竜雄、水野絵扇、若山かん菜、左道　正、平松　建、加藤品子、菊地順風、棚瀬くんじ、高田以呂波、浦川一平、丸山芳夫、横山きのこ、藤原栄子、末田りつ子、佐藤美文、植竹団扇、松橋帆波

欠席投句3名

石田きみ、白勢朔太郎、渋川渓舟、

※句評会、十四字詩、課題吟共に全作品のコメントを収録できず、一部となっていることをお詫びいたします。（帆波）

自由吟　句評会

確かめる重さと匂い新刊書　ゆう子

・教科書を思い出した。正

・本を買ったときの期待感がでている。美文

作者・新刊書を手にしたときの思いを詠みました。

銀行のカメラになぜか目を伏せる　三十六

・実感が思い当たる句です。絵扇

・実感があります。玉枝

・見られているという意識から生まれた作品。美文

・心の襞を覗かれたような感じが想像される。利江

・第三者から見た挙動の面白さを感じる。以呂波

・同感ですね。くんじ

・実感が湧きます。建

・よく判ります。上手いと思います。竜雄

作者・何もしていないのに悪いことをしているような気になる実感句です。

何の日か思い出せない日章旗　正

・川柳をやっていたら少しはこういう日のことも覚えなくちゃと思いました。千枝子

・意味深な句だと思う。一平

作者・政治的な意味はなく、実感を詠みました。

ニコチンも出るのだろうか尿検査　帆波

作者・時事吟の作り方のとして試したのだが・・

餃子より美談に当たる五輪中　かん菜

・美談に当るという表現が面白いと思う。芳夫

作者・感動させようという報道にうんざりしていて、そこを表現したかった。

永遠の命は無いがさりながら　利江

・新鮮な作り方だと思う。品子

・どうにもならない未練が込められている。倫也

作者・自分より若い方が亡くなると残念に思う。

元々は武器携帯のボランティア　倫也

作者・ボランティアの語源は義勇兵。日本の海外ボランティアは善意を御旗にするが、危険な地域もあることを考えなければならないのではと感じたところから詠んだ。

餃子から隣の政治垣間見る　竜雄

・昔は中国というと礼智信とか、老人を思いやるとかのイメージだったが、今の中国はどうしたのだろうと思いました。千枝子

・中国の政治のことだろう。くんじ

作者・政治と外交のあり方を感じさせられた餃子事件。

ステップはジャマイカあたり新記録　団扇

・ちょっと判らないなと思いつつも選びました。芳夫

・洒落た表現だなと思う。利江

・百メートルの決勝。ジャマイカのボルト選手の事。竜雄

作者・オリンピックを見て。そこから歌の歌詞に繋げた。歌が先ではなく、百メートルの記録がきっかけ。

動かない姑ヨメよりよく食べる　千枝子

・嫁と姑の立場が見える作品。利江

・深い意味のある作品では。三十六

作者・楽しい句が好きなので、こういう表現を選びました。

解散と天にいななく岩手馬　健

・岩手馬は？と思ったが、小沢党首と結びつくところが面白い。正

・民主党党首の選挙区と解散を掛けている。くんじ

作者・岩手だと直ぐ小沢氏に結びつくと感じていたのだが、少し通じ難かったようです。

晴天に巻かれたホース伸びをする　くんじ

・巻かれていたホースがいざ出番というときに伸びをしたという表現が面白い。芳夫

・ホースの伸びをするという表現がいい。りつ子

・消防車のホースか。ホースは比喩では。願望の表現。美文

・植木や散水のホースでは思った。面白い。順風

作者・庭に水を撒いたりする時のホースの気持ちを想像して詠んだ。

親切が感謝されないお節介　以呂波

・親切心が空回りした様子が面白い。かん菜

作者・具体性を入れないで想像が広がる作品を詠んでみたい。

青春に忘れ物した取りに行く　品子

・「忘れ物した」が気になるがいいと思います。玉枝

作者・常日頃思っていること。今でも遅くないといろいろなことにチャレンジしたい。

ポニョポニョとしゃべる子がいて輪がひとつ　順風

・映画かと思うが舌足らずな子供を表現したのかとも読め、面白い。成子

・輪が一つが良いです。ゆう子

・風景が眼前に現れていい句だと思う。三十六

作者・電車の中で出会った一つの風景です。

独り居にあれ鈴虫が鳴いている　絵扇

・老境を淡々と読まれているところがいい。倫也

・風情があっていい句です。きのこ

作者・暑かった日の夜、鈴虫の音が聞こえ、淋しいと同時に癒されるものであったりする。そういう感情を詠みたかった。

けんけんの耳から熱い海の水　芳夫

・そういえばそんなこともあったと思い出される。かん菜

・けんけんの耳がいい。きのこ

作者・泳いだ後に耳から水が出てくるのを詠みたかった。プールではまとまらないので海とした。

奉賀帳嫉妬と自慢入り交じる　一平

・人間の本質が見えている気がした。りつ子

・「自慢」を「見栄が」として比較してみたい。三十六

作者・寄付金の額が書いてある奉賀帳。それを観た人の感情の様々を詠んだ。

近道という矢印にある不安　渓舟

・近道は私も以前よく扱った題材。芳夫

・詐欺事件に通じる気がしていいと思う。成子

・普段歩く道もだが人生もそうだと思う。絵扇

・なんでも疑って掛からなければならない時代を表している。以呂波

・安易な生き方を言っているのでは。ハウツー本を思い浮かべた。倫也

・抜けられますと書いてあって変な所へ出ることがあったり、そんなことを思いました。くんじ

・奥行きのある句に仕上がっている。順風

人生をいろはにほへと泳ぐ妻　栄子

・すいすいと動く生き方を表しているようで良かった。成子

・男女問わず、人生をいろは唄に准え泳いでいくような深い句だと思います。一平

作者・平仮名で柔軟に表現したかった。

人よりも犬にあいさつ朝散歩　りつ子

・人間関係が想像されて面白い。かん菜

作者・散歩していると、人より犬にあいさつしている人が多い。それで詠んでみました。

人間はエライか　自然指揮出来ず　きのこ

作者・「思い込み」という課題で詠んだ作品です。

空き部屋に風鈴だけが良くはしゃぎ　玉枝

・意味がすっと入ってきた作品。品子

・実際にあるとうるさいので、面白い。くんじ

作者・実感句。引っ越した部屋のベランダに取り残された風鈴からの着想です。

水平線の裏側きっと朝寝坊　朔太郎

作者・海岸へ夕陽を見るために散歩に出かけるが、地球は丸いから水平線の裏側は多分朝だろうと想像した。すると早朝は朝寝坊が多いだろうと、そういう事が浮かんだ句です。

11月より「十四字詩句会」を立ち上げられます川柳マガジンでもお馴染みの、佐藤美文先生がご参加くださいました。

急遽ご無理を言いまして「十四字詩」についてお話を頂き、また即興で皆さんに詠んでもらい、先生の御選とご解説をいただきました。

「十四字詩」佐藤美文選

「十五秀」

ひちひちひちの鳴呼質流れ　くんじ

ネクタイゆるめ今日も残業　正

猛暑引きづり秋のファッション　千枝子

昼からの酒堕落してみる　芳夫

平和論者が喧嘩している　倫也

明日の天気は下駄に尋ねる　かん菜

とんだ所で遇ってから友　団扇

パソコン将棋待った連発　正

人助けするはずが助かる　玉枝

残業もよし秋の夕暮れ　芳夫

熱いから嫌寒いから嫌　団扇

未来伝達過去の出来事　絵扇

花屋から菊寺町の中　竜雄

あったら怖い黒い花びら　帆波

春を待ってる恋も桜も　絵扇

「五客」

赤じゅうたんに隠す事務所費　三十六

野球見ずとも夜は更けゆく　芳夫

藍浴衣から匂う過ぎた日　ゆう子

何度も懲りぬ鍵の捜索　品子

試食はしない自社製品をかん菜

「三才」

トローチが溶け昼の月溶けきのこ

青空と雲レギュラーのままきのこ

親の背中が丸い夕暮れ　三十六

軸吟　髭剃りあとにコスモスの風　美文

◎選後評

十四字詩は「十四音字」ならいいというものではなく、俳諧の短句のように「七・七」で詠みます。

・七七になっていなかったもの中から、

犯罪を刑罰だけで決め

・次のように直してみました。

刑罰だけで責める犯罪

窓際に人知れず佇む

・「窓際に」で切れてしまい、七・七にならない。

江戸っ子に間違いないと知れる通帳

は、

江戸っ子だけどお金貯めてる

ではどうでしょう

好きですと何度も言える心の臓持ち

は、次のようにしてみました。

好きですと言う心の臓持ち

・下の七は「三・四」で収めるのが理想です。四・三止めはなるべく避けるようにしましょう。

時計見ながら坊主のお経

と、

坊主のお経時計見ながら

を比較してみてください。

佐藤美文先生、大変ご無理を言ってすみませんでした。とても勉強になりました。ありがとうございます。

課題吟「ちょっと怖いこと」松橋帆波選

「佳作」

注射器の先が微妙にふるえてる　順風

進めない戻れない吊橋の上　玉枝

断崖の花手をのばす夢を見る　成子

焼酎が飲みにくくなるヤバイ米　竜雄

年金を貰える頃のこの地球　品子

茨城の海に地震が眠ってる　竜雄

お隣の子の万引きを見てしまい　千枝子

おしゃべりな友が隣へ越して来た　玉枝

逢う度に強精剤を飲まされる　団扇

ダメ出しをしてくれる人居なくなり　りつ子

赤ちゃんにメトロでガンを飛ばされる　団扇

口笛が漏れる深夜のマンホール　団扇

無呼吸の夫揺すってとがめられ　成子

休田の明日に見えて来ぬビジョン　利江

少子化の先を読んでる温暖化　美文

「秀作」

タマの目がキラリと光ることがある　絵扇

降るたびに観測史上初の雨　芳夫

定形外増えてこの世が住みにくい　一平

「特選」

口論になった相手が傘を持つ　りつ子

軸吟　お値打ちの米の素性が判らない　帆波

9月句会風景

◎選句

包丁が一本どこへいったやら
包丁が一本行方不明です

・表現が平易で良い作品なのですが、競吟ということで、両方選ぶ、またどちらかを選ぶ、という事はできませんでした。

・状況をそのまま詠んだもの

勧誘のうまい話についてゆき

・沢山の言葉が詰め込まれていてくどい印象を与える

事故米の怪悪酔いが直らない

・大げさな作品（頭で作った作品）

気が付けば刃物だらけの家にいる
魚より大きな尾鰭つく噂
保険勧誘にちょくちょく来る地震
飛び乗ってしまった女性専用者

・課題からの距離が遠い。

聞いたよと言われればれたかあの話

・選者として既視感が強いので選べなかった作品。

認知症海の深さに気がつかず

・この課題に似た課題で、よくある着想。（過去にもあった着想）

今日もまた固有名詞が出て来ない
書くまいか書いて置こうか遺言書
知り過ぎた社の内情に気がもめる

・他の課題でも詠み尽くされている着想。

マンションの住み人知らず両隣
暗がりに人ほど怖いものはない
すぐ返すつもりで借りたキャッシング
ほろ酔いで帰る夜道の曲がり角
父権去り地震雷火事女房
糖尿の姑が大福隠してる
カルテ見て暫く何も言わぬ医者
アダルトのサイト払えと文字が言う
知らぬ間に生命保険入れられた
選手たち本場の餃子賞味する
三日前買った饅頭食べてみる
デパートで買うものと知るカブト虫
演技より露出の方へ女子選手

以上

まとめ（帆波）